

2023(令和5)年度 教職課程に関するFD・SD 合同研修会報告書

2023年度 教職課程に関するFD・SD 合同研修会を開催いたしました。

研修内容は、「①教職課程の実践・結果・評価」について。「②教職課程委員会FD研修会の情報共有」は、濱本想子先生の動画を活用した「教員養成におけるICT活用の理論と実践」の実践発表。続けて、「③教職課程認定申請の進捗状況」についての報告でした。

今回、教務課のご協力により、教職1年次科目を履修している学生の内、その何割が教員免許状を取得したかについて、学科毎のデータをまとめることが出来ました。実際、2020年度入学生の教職科目履修者156人のうち、2023年度に47人、科目等履修等で次年度以降の取得見込者も含めると67人(42.9%)が教員免許状を取得見込みです。入学年度関係なく2023年度に教員免許状を申請した学生は64人(英語22人、情報1人、保健体育24人、養護17人)で、その内の31人(48.4%)が採用試験を受験しました。その中から1次試験合格者11人、最終合格者7人でした。卒業時の調査で教職に就く予定の学生は、届け出のあった範囲では、20人程度ですが、沖縄県の教員採用試験に挑戦している本学の学生は、卒業生も含めると毎年100人以上の志願者がいるという現状も明らかになりました。

教職課程の運用については、全国的に教員不足が課題となっている現状を踏まえると、教員のやりがいや魅力を伝えて、さらに教職希望者を増やしたいと考えているところです。全教職員のご理解とご協力が必要と考えております。今後とも、当教員養成支援センターでは、皆様からの忌憚のないご意見、ご助言等を賜りたいと存じます。

ご多忙の中、実践事例を発表していただきました濱本想子先生には、今回の貴重な動画の提供も併せて、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。今後とも、ICT活用へのアドバイスを賜りたいと思います。

今回は、できるだけ自由な時間に参加できるよう2024年2月1日からの約一月、動画とPDF資料の配信(オンデマンド形式)の研修会といたしました。教職員の皆さんが、様々な視点から有益なコメントをお寄せくださったことに心より感謝申し上げます。教職課程の現状を理解してもらったいい機会になったかと思われま。

ご多忙の中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

以下に、コメントの内容を一部抜粋してご紹介いたします。

①教職課程の実践・結果・評価について

- ・今後も、ゼミや、専攻の学生に、教職を目指す道を進めたいと思います。去年から沖縄県内母校の高校評議員を務めているので、高校との接続などについても、あまり個人的に仕事できていませんが、改めて見直して、優秀な学生が教職を志してほしいと思います。
- ・地歴科に関して、教職科目の履修状況によって教職希望率が把握できたことはよかった。
- ・少子化が進む中で、入学生の確保という視点は重要だと思うので、教職が入学者数にも影響しているのではないかと採用数の多い中学の免許が取れると良いのではないかと等というお話が印象的でした。
- ・名桜大学の教職課程について客観的なデータをもとに、自己点検評価がしっかりと行うことができている点は素晴らしいと思いました。そして大変勉強になりました。教職課程の成果(教員養成)という視点と同時に高校生ニーズ(学生募集)という観点からの議論も重要と理解できました(新入生アンケート調査やGPS-Academicでは志望動機を調査していたと記憶しています)。国際学部の教職課程に課題が多いと思いますので、国際文化学科の教職課程の新設については、その点も議論できるとよいかと思いました。
- ・本学の教職履修生の実態が数値をもって明らかになった点は、非常に良かったと思う。
- ・国際文化、語学教育の学生の中には、「英語は好きで勉強したいけど、免許はいらぬ」という声もある。また、教職を目指したいが、基礎的な学力(漢字検定、英語検定)が不十分な学生もいる。
- ・本学は、私立大学の時に、玉川大学と連携したが、修得単位数が多くて希望者は少なかった。本学の公立大学への移管により、玉川との連携はなくなった。
- ・教職を1年で志望していた学生のうち、何人が無事に免許取得・就職を実現しているのかが気になるところです。

GPA、検定試験等ハードルを設けることは重要ですが、目標を達成できるように学生を支援することもまた重要と認識しています。

- ・徐々に、「結果」が出てきているのではないかと考えております。
- ・私自身も教員免許の支援に関わっているので、これまでの傾向がまとめて理解できて良かったです。
- ・これまで全く知識がなかったので、改めて現状を認識しました。
- ・すごい量のデータをとても分かりやすく紹介してくれました。・自分の授業の参考になりました。

②教職課程委員 FD 研修会「教員養成における ICT 活用の理論と実践」の動画視聴について

- ・電子黒板や、ロイロノートを実際に模擬授業で学生に使わせていますが、もっと勉強が必要なので、このような研修をぜひ今後も開いてほしいです。
- ・ICT は現時点でも中高含めて活用されており、また今後も広がると予想されるため、勉強になった。各教科での使い方の違い（特徴、難しさ）なども知りたいと思った。
- ・体育での ICT 活用の事例（例えば、自分や仲間の動きの確認など）を学ぶことができ、大変参考になりました。大学でこのように ICT 活用を実践的に学ぶことは、今後教職を目指す学生にとって非常に有用であると感じました。
- ・時代の潮流も踏まえた先生方の実践知の最先端を知る機会があることは、とても有意義に感じています。
- ・ICT の活用について、現在学校現場で起きている変化や実践のお話を聞いて、大学の教員もアップデートしていかなければいけないことがたくさんあると感じました。
- ・保健体育の教科教育において、教員だけでなく、すでに教師の卵である学生が ICT 活用をした実践的授業のスキルを学んでいることを初めて知り、大いに勇気づけられました。
- ・教職 FD の流れで視聴しましたが、ICT 人材を育てる授業実践をテーマとした大学 FD としても参考にさせていただきたいと思います。
- ・授業づくりにおいて大変勉強になる研修でした。
- ・学校現場で広く活用されているロイロノートなどの紹介は、有益であったと思う。英語の授業での ICT 活用の事例も紹介して欲しい。
- ・学校現場で、ICT 活用が求められていることは事実でありますので、私たち大学教員もスキルアップしていく必要を感じております。ただし、この動画の内容全てを、すぐには理解できない現状であり、ついていけない私自身がいるのも事実です。継続的な研修が必要だと思います。
- ・ICT 活用はもちろんのこと、実践的かつ省察的を取り入れた経験学習の取り組みが印象的でした。貴重なお話をありがとうございました。



写真 濱本先生の実践事例発表

③教職課程認定申請の進捗状況について

- ・認定申請に参加しましたが、文科省の申請の厳しさがわかるために、今回の国語、社会、公民の免許の申請がうまくいこうサポートしたいです。ありがとうございました。
- ・今後の進捗に合わせて、担当科目に関する必要書類の準備を進めたいと思います。
- ・学生の選択肢が増えることは、よいことと感じます。その一方で、他学部・学科の課程により取得可能な教職課程や資格を履修するという道を模索することは難しいのかとも思うことがあります。
- ・令和 8 年度新設に向け、令和 6 年度に申請準備を計画的に進めていくことで理解しました。あくまで主体は学科です。大学がトップダウンで教職の設置・廃止を決めているとの偏見や誤解が学科に生じないようにしたいと思います。
- ・免許申請に向けて着実に進めて欲しい。

その他

以下は本研修会の内容に関わらず、大学の設備に関わる内容です。本学の ICT 環境は、特に音声機器やイヤホン・マイク等で英語スピーキングの訓練を行うための設備が欠如しているなど、構造的な問題を抱えています。BYOD の流れが全国の大学に普及して久しいですが、学修に必要な学内設備の充実を図ることに予算を投資してほしいと感じています。